

善意と医療のかけ橋

2026年7月7日

報道関係者 各位

血漿分画製剤の安定供給の確保と国内自給率向上に向けた
生産基盤強化に関する事業構想について

一般社団法人日本血液製剤機構（以下、JB）は、今後の事業戦略および生産基盤強化に関する事業構想（以下、本構想）において、血漿分画製剤の新製造工場建設を中心とした2,000億円規模の投資を実施する方針を定めましたので、お知らせいたします。

本構想においては、北海道千歳市に新たな用地を取得して新工場を建設することに加え、既存の国内2か所（北海道千歳市、京都府福知山市）の製造拠点を再整備することにより、現在の2倍の原料血漿処理能力を確保するとともに、免疫グロブリン製剤を中心とした増産体制を構築いたします。

これらの取組みによって日本国内における血漿分画製剤の製造体制をより強固なものとし、継続的な安定供給を確保することで日本の医療に一層貢献することを目指してまいります。

免疫グロブリン製剤をはじめとする血漿分画製剤は、感染症、免疫関連疾患、出血性疾患など様々な疾患の治療に欠かせない医薬品であり、その製造設備は多くの患者さんの生命と健康を支える重要な医療インフラとなっております。しかしながら、免疫グロブリン製剤については、近年、医療需要が増加するとともに海外製剤への依存度が高まった結果、2015年度には100%に近かった国内自給率が2025年度では59.4%※1まで低下しており、また、今後の需要増大や供給責任の更なる高まりを見据える中で、従来供給体制の延長線による対応だけでは十分と認めないため、国内自給の維持・向上と安定供給体制の確立による健康医療安全保障の強化に向け、生産能力の増強と供給体制の更なる強化を図っていくことといたしました。

JBは、基本理念である「善意と医療のかけ橋」の体現に向け、安心・安全を最優先に国内の安定供給と国内自給の達成を目指し、善意の献血による血漿分画製剤を通じ、高い倫理観と使命感をもって人びとの健康に貢献します。

「プレスリリースに記載されている情報は、報道関係者およびアナリストを対象としたものであり、開発品を含むいかなる医療用医薬品を勧誘、宣伝または広告するものではありません。」

※1：薬事審議会血液事業部会令和8年度第1回運営委員会【資料5】

(https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_73826.html)